

高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第33週（8月13日～8月19日）

★お知らせ

○夏型感染症（手足口病・咽頭結膜熱（プール熱）・ヘルパンギーナ）に気を付けて！

夏型感染症の報告が増加していますので注意しましょう。

手足口病

定点医療機関当たりの報告数は、第32週の1.47から第33週には1.57と横ばいです。県全域から報告があり、安芸で減少していますが、須崎で急増、中央東で増加し、特に須崎、安芸では注意報値を超えています。

手足口病・ヘルパンギーナの原因ウイルスであるエンテロウイルスの検出状況としては、臨床診断名「肺炎」として搬入された検体からCoxsackievirus A9が1例検出されています。今季、臨床診断名「手足口病」で検出数の多いEnterovirus 71は中枢神経系の合併症の発生率が高いことが知られ、まれに急性髄膜炎や急性脳炎を生ずることがあります。高熱・嘔吐・頭痛が見られる場合は十分に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

咽頭結膜熱（プール熱）

定点医療機関当たりの報告数は、第32週の0.63から第33週は0.57と横ばいです。中央東で急減していますが、幡多では注意報値を超えています。

定点医療機関からのホット情報ではアデノウイルスによる感染症7例の報告があります。

<予防方法> これらの疾病は主に接触感染、飛沫感染、患者の便により感染が拡大します

手洗い・うがいが大切です。流水と石けんでよく手を洗いましょう。また、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避けるなどして、感染予防に努めてください。

○流行性角結膜炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第32週1.67から第33週には4.67と急増し注意報値を超えています。高知市で急増し、警報値を超えています。

定点医療機関からのホット情報では、小児科定点医療機関から流行性角結膜炎2例の報告があります。

年齢別にみると、5～9歳と30～39歳の報告数が21%と一番多く、次いで20～29歳が14%となっています。

この病気は、「はやり目」とも言われ、流涙、結膜充血、眼脂が主な症状で、感染力が強く、片眼発症後は2～3日で両眼に発症することもあります。また、耳前リンパ節腫脹と圧痛を伴うこともあります。アデノウイルスによる接触感染のため、患者の眼や顔を触った後は流水と石けんでしっかり手洗いしましょう。

<予防方法> 人が濃密に接触する機会が多い場所は注意して下さい

できるだけ他人との接触は避け、眼を触ったらすぐに石けんと流水で手洗いしましょう。家庭内ではタオル、枕、その他眼や涙で汚れそうな物の共有は避けるようにしましょう。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第32週の1.93から第33週には2.00と横ばいです。中央西で急減、中央東で減少していますが、須崎で急増、高知市で増加しています。

定点医療機関からのホット情報では、「胃腸炎が増えてきている」との報告があります。

病原体検出情報では臨床診断名「感染性胃腸炎」として搬入された検体からNorovirus GII NTが1例検出されていますので注意して下さい。

<予防方法> 手洗いが有効です。

帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。また、便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用方法を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

細菌による感染性胃腸炎の予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（食中毒菌を①付けない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

○百日咳に気を付けて！

第 33 週に百日咳の発生届けが、高知市保健所から 2 例、須崎福祉保健所から 3 例報告され、2018 年にはいって高知県内の百日咳の届出は合計 147 例となっています。

百日咳は、感染力が強く、咳やくしゃみなどによる飛沫感染や接触感染により感染します。7~10 日程度の潜伏期を経て、普通の咳症状で始まり、咳の回数が増えていきます。次第に短い咳が連続的に起こり、息を吸う時に笛のようなヒューという音が出るようになり、このような咳嗽発作が繰り返されます。やがて、激しい咳は減衰していき、2~3 ヶ月ほどで回復します。

百日咳は特にワクチン未接種の乳幼児が罹患すると重症化しやすく、罹患しても典型的な発作性の咳嗽を示すことが少ない比較的軽い症状の成人から重症化しやすいワクチン未接種の新生児や乳児へ感染することが考えられることから、成人で咳が長期にわたって持続する場合は注意して下さい。

＜予防方法＞ 4 種混合ワクチンは生後 3 ヶ月から接種出来ます

- ・生まれた直後から百日咳にかかる可能性があります。咳が続いている人は、百日咳の可能性も考えて、赤ちゃんに注意して接しましょう。
- ・外出時にはマスクを着用し、人混みはなるべくさげ、帰宅時には、手洗いを励行しましょう。
- ・定期予防接種があります。ワクチンは生後 3 ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

●国立感染症研究所 百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン

https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/pertussis/pertussis_guideline_180425.pdf

当ガイドラインに届出基準（資料 1）、発生届出様式（資料 2）あり

○風しんの届出数が増加しています

例年と比較して、関東地方で風しんの届出数が大幅に増加したことから、高知県健康対策課は平成 30 年 8 月 17 日付け 30 高健対第 850 号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」により、各医療機関管理者の皆様へ、発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いするとともに、風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生研究所で行うので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出いただくよう併せてお願いしています。

この時期は多くの人の往来が見込まれることから、今後、全国的に感染が拡大する可能性がありますので、注意してください。

特に、妊娠を希望される方、又は妊娠する可能性の高い方につきましては、明らかに風しんに罹ったことがある方、風しんの予防接種を受けたことがある又は風しんに対する抗体が陽性であると確認できている方以外の方は、任意で風しんの予防接種を受けることについてご検討いただくようお願いいたします。

風しんについて(厚生労働省)より抜粋

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/vaccination/vaccine.html

ワクチン接種状況チェック

生年月日	ワクチン接種状況
昭和 37 年 4 月 1 日以前生まれの男女	定期接種が行われていませんでしたが、大半の人が自然に風しんに感染することで免疫があります。
昭和 37 年 4 月 2 日～昭和 54 年 4 月 1 日生まれの男性	中学生の時に女性のみを対象として、学校で集団接種が行われていたため、自然に風しんに感染する機会が減少し、男性は定期接種制度が行われていないので、風しんの免疫がない人が多い世代です。
昭和 54 年 4 月 2 日～昭和 62 年 10 月 1 日生まれの男女	男女とも中学生の時に予防接種を受ける対象になっていましたが、中学生のときに個別に医療機関で予防接種を受ける制度であったため接種率が低く、風しんの免疫がない人が多い世代です。
昭和 62 年 10 月 2 日～平成 2 年 4 月 1 日生まれの男女	男女とも幼児のときに予防接種を受ける対象となり接種率は比較的高いのですが、自然に風しんに感染する機会がさらに減少したために、接種を受けていない人には風しんの免疫がない人が比較的多い世代です。

8月17日 高知県健康対策課から日本脳炎ウイルスへの感染の注意喚起を発表！

高知県衛生研究所で実施している感染症流行予測調査において8月14日に採取したブタの血液検査からブタが日本脳炎ウイルスに感染したことが判明しました。

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスを媒介するコガタアカイエカが、そのウイルスに感染したブタの血液を吸血した後、ヒトを刺すことによりヒトが感染します。日本脳炎ウイルスがヒトからヒトへと感染することはありません。

予防対策と注意事項

- ①蚊（コガタアカイエカ）に刺されないように注意する。
- ②予防接種を受ける。（かかりつけ医に相談してください。）
- ③十分な栄養をとり、過労を避ける。

☆山や草むらでの野外活動の際にはダニに注意



農作業や草刈りの時には、長袖・長ズボンで肌の露出を出来るだけ少なくしましょう。

日本紅斑熱やSFTS（重症熱性血小板減少症候群）は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かくなる春から秋にかけて活動が活発になります。人も野外での活動が多くなることから、マダニが媒介する感染症のリスクが高まります（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用 医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30%	防除用 医薬品	約6時間	12歳未満は 使用禁止	
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	～6時間		
	高濃度製剤 15%	防除用 医薬品	6～8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋

※市販の虫除け剤(忌避剤)は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち上がったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

SFTSはマダニからの感染が一般的ですが、最近の研究で、SFTSウイルスに感染し、発症している野生動物やイヌ・ネコなどの動物の血液からSFTSウイルスが検出されています。このことは、SFTSウイルスに感染している動物の血液などの体液に直接接触した場合、SFTSウイルスに感染することも否定できませんので、動物に触った後は必ず手洗いをするなどの感染予防に努めましょう。また、体調不良の動物と接触した後、発熱等の症状が出た時は、早めに医療機関を受診してください。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

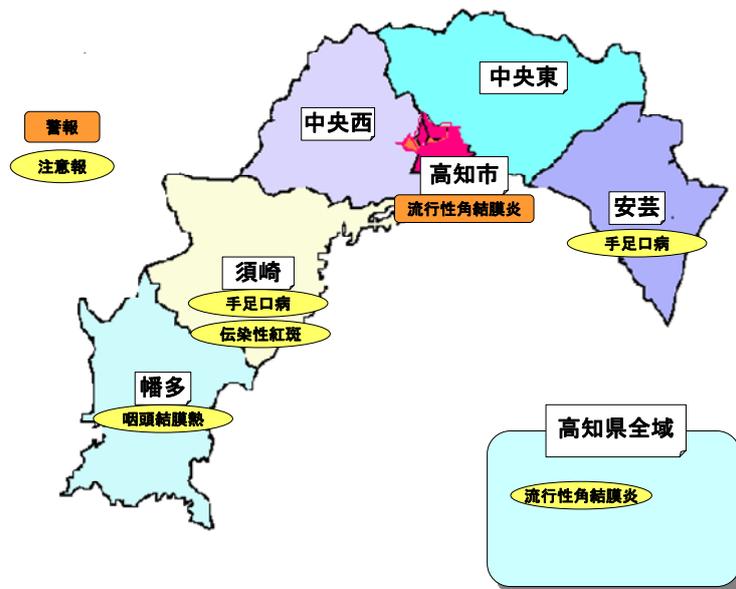
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑ : 急増 ↗ : 増加 → : 横ばい ↓ : 減少 ↓ : 急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	2.00	中央西で急減、中央東で減少していますが、須崎で急増、高知市で増加しています。
手足口病	→	1.57	安芸で減少していますが、須崎で急増、中央東で増加し、須崎、安芸では注意報値を超えています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	0.80	中央西、幡多、須崎で急減していますが、安芸で急増、高知市で増加しています。
RSウイルス感染症	↗	0.73	幡多で急減していますが、中央東、高知市で急増、県全域で増加しています。
咽頭結膜熱	→	0.57	中央東で急減していますが、幡多では注意報値を超えています。

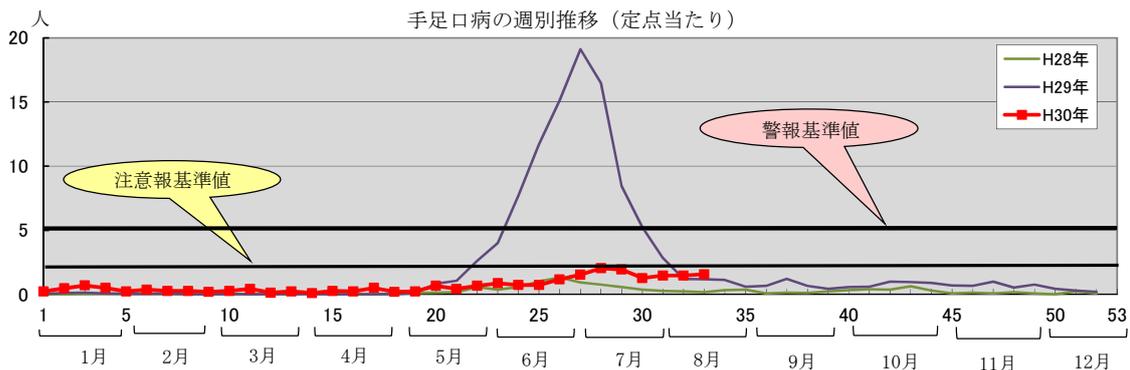
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

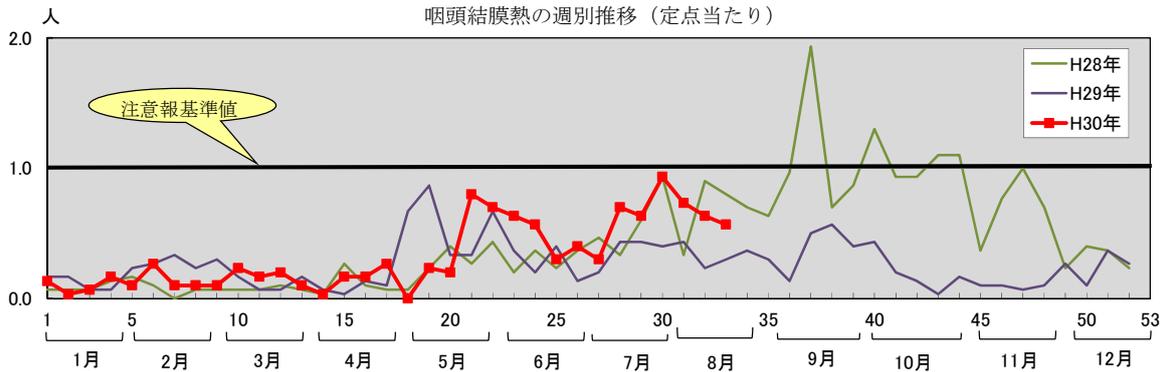
○手足口病 第33週：1.57（注意報値：2.00 警報値：5.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり1.57（前週：1.47）と横ばいです。安芸2.00（前週：3.00）で減少していますが、須崎4.00（前週：1.50）で急増、中央東1.29（前週：1.00）で増加し、須崎、安芸では注意報値を超えています。年齢別に見ると、全ての患者が5歳以下となっています。



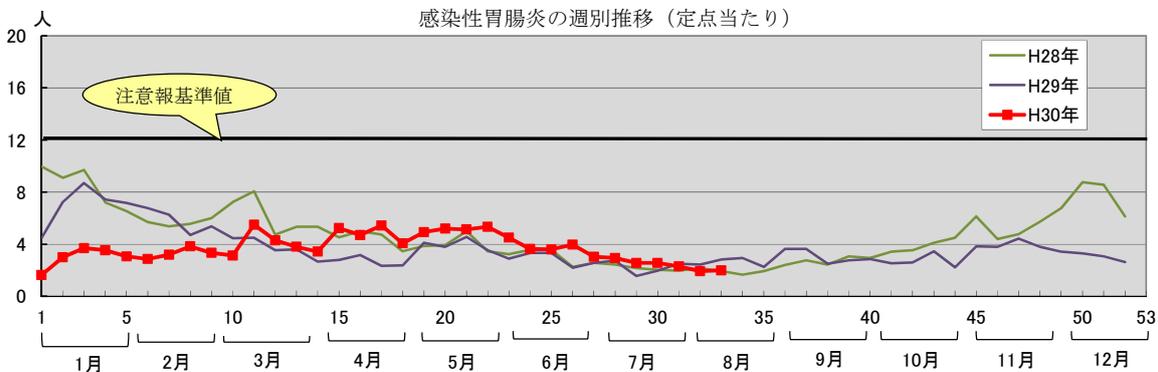
○咽頭結膜熱 第33週：0.57 (注意報値：1.00 警報値：3.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり0.57(前週：0.63)と横ばいです。中央東0.00(前週：0.29)で減少していますが、幡多1.40(前週：1.40)では注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎 第33週：2.00 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり2.00(前週：1.93)と横ばいです。中央西0.00(前週：0.67)で急減、中央東1.57(前週：2.00)で減少していますが、須崎1.50(前週：0.50)で急増、高知市3.27(前週：2.64)で増加しています。



★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
33	感染性胃腸炎	38℃,嘔吐,嘔気,腹痛,	9	男	中央東	Norovirus GII NT

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
31	肺炎	40℃,肺炎,	1	女	高知市	Coxsackievirus A9
32	急性咽頭炎	咳嗽,上気道炎,	2	男	幡多	Cytomegalovirus
32	伝染性紅斑	—	7	男	須崎	Human herpes virus 7

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所	
2類	結核	1	67	70歳代 男	安芸	
		1		70歳代 女	高知市	
4類	レジオネラ症	1	3	50歳代 男	須崎	
5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	12	40歳代 女	高知市	
		1		70歳代 男		
		1		80歳代 女		
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	13	50歳代 女	中央東	
	梅毒	1	14	20歳代 女	高知市	
		1		50歳代 男		
	百日咳	百日咳	1	147	30歳代 女	高知市
1			50歳代 女			
1			5~9歳 男		須崎	
1			10~14歳 男			
1	50歳代 女	須崎				

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	おひさまこどもクリニック	アデノ咽頭炎 2 例 (2 歳男、4 歳男)
	早明浦病院小児科	RS ウイルス感染症 2 例 (1 歳男女 : 内 1 例は医療センターに入院)
高知市	高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 3 例 (3 ヶ月女、1 歳男女) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎 1 例 (7 歳男) ヒトメタニューモウイルス 3 例 (8 ヶ月男、1 歳男 2 人)
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス咽頭炎 3 例 (1 歳)
	福井小児科・内科・循環器科	溶連菌感染症 5 例 手足口病 2 例 ヘルパンギーナ 2 例 胃腸炎が増えてきている
中央西	石黒小児科	ヘルペス性歯肉口内炎 1 例 (6 歳女) 百日咳の流行が疑われる
須崎	もりはた小児科	流行性角結膜炎 2 例 (6 歳、7 歳) 幼児を中心に顔面・四肢型発疹から Cox A-9 が検出される例有り 33w 百日咳 2 例 (6 歳男、10 歳男)
幡多	こいけクリニック	アデノウイルス感染症 1 例 (3 歳女) アデノウイルス結膜炎 1 例 (4 歳男)

★全国情報

第31号 (7月30日～8月5日)

- 1類感染症：報告なし
- 2類感染症：結核338例
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症163例、腸チフス2例
- 4類感染症：E型肝炎9例、A型肝炎22例、重症熱性血小板減少症候群1例、つつが虫病1例、デング熱1例
日本紅斑熱5例、マラリア2例、ライム病1例、レジオネラ症25例、
- 5類感染症：アメーバ赤痢4例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症40例、急性脳炎7例、
クロイツフェルト・ヤコブ病5例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症8例
後天性免疫不全症候群16例、ジアルジア症2例、侵襲性インフルエンザ菌感染症10例
侵襲性肺炎球菌感染症23例、水痘（入院例に限る）5例、梅毒88例
播種性クリプトコックス症4例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、百日咳201例、
風しん19例
- 報告遅れ：コレラ1例、細菌性赤痢1例、腸チフス1例、E型肝炎4例、回帰熱1例、デング熱4例、
ライム病1例、レジオネラ症15例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症23例、
急性脳炎10例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、水痘（入院例に限る）4例、梅毒68例
播種性クリプトコックス症3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、百日咳182例、
風しん4例、薬剤耐性アシネトバクター感染症3例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第33週 平成30年8月13日(月)～平成30年8月19日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第33週							計	前週	全国(32週)	高知県(33週末累計)		全国(32週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/8/19				H30/1/1～H30/8/12			
化研 ラボ	インフルエンザ								()	()	191 (0.04)	20,862 (434.63)	1,760,209 (356.82)			
小児科	咽頭結核熱				7	2	1	7	17 (0.57)	19 (0.63)	1,180 (0.39)	322 (10.73)	47,134 (14.96)			
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	1	3	18	1		1	24 (0.80)	23 (0.77)	3,292 (1.10)	1,344 (44.80)	237,848 (75.48)				
	感染性胃腸炎	4	11	36			3	60 (2.00)	58 (1.93)	9,119 (3.05)	3,642 (121.40)	526,245 (167.01)				
	水痘			5			2	7 (0.23)	5 (0.17)	591 (0.20)	180 (6.00)	32,495 (10.31)				
	手足口病	4	9	20	2	8	4	47 (1.57)	44 (1.47)	4,096 (1.37)	671 (22.37)	69,062 (21.92)				
	伝染性紅斑		1	1			2	5 (0.17)	4 (0.13)	663 (0.22)	82 (2.73)	16,204 (5.14)				
	突発性発疹		2	6	2	2		12 (0.40)	11 (0.37)	1,174 (0.39)	359 (11.97)	44,950 (14.27)				
	ヘルパンギーナ		6	5				2	13 (0.43)	10 (0.33)	7,020 (2.35)	85 (2.83)	56,835 (18.04)			
	流行性耳下腺炎			1				1 (0.03)	3 (0.10)	354 (0.12)	48 (1.60)	16,053 (5.09)				
	RSウイルス感染症		7	10				5	22 (0.73)	18 (0.60)	4,090 (1.37)	251 (8.37)	47,980 (15.23)			
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	3 ()	()	425 (0.61)				
	流行性角結膜炎			14				14 (4.67)	5 (1.67)	515 (0.81)	55 (18.33)	17,638 (25.38)				
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	10 (0.02)	3 (0.38)	307 (0.64)				
	無菌性髄膜炎							()	()	21 (0.04)	1 (0.13)	441 (0.92)				
	マイコプラズマ肺炎		2	3				5 (0.63)	2 (0.25)	108 (0.23)	58 (7.25)	2,601 (5.42)				
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)							()	()	1 ()	12 (1.50)	100 (0.21)				
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)							()	()	2 ()	29 (3.63)	2,986 (6.22)				
計 (小児科定点当たり人数)	9 (4.50)	41 (5.58)	126 (9.91)	7 (2.34)	16 (8.00)	28 (5.60)	227 (6.93)			32,430	28,004 (667.43)	2,879,513				
前週 (小児科定点当たり人数)	12 (6.00)	32 (4.58)	96 (8.09)	14 (4.68)	7 (3.50)	41 (8.20)		202 (6.50)								

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第33週							計	前週	全国(32週)	高知県(33週末累計)		全国(32週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/8/19				H30/1/1～H30/8/12			
化研 ラボ	インフルエンザ										0.04	434.63	356.82			
小児科	咽頭結核熱				0.64	0.67	0.50	1.40	0.57	0.63	0.39	10.73	14.96			
	A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	0.50	0.43	1.64	0.33		0.20	0.80	0.77	1.10	44.80	75.48				
	感染性胃腸炎	2.00	1.57	3.27			1.50	1.20	2.00	1.93	3.05	121.40	167.01			
	水痘			0.45				0.40	0.23	0.17	0.20	6.00	10.31			
	手足口病	2.00	1.29	1.82	0.67	4.00	0.80	1.57	1.57	1.47	1.37	22.37	21.92			
	伝染性紅斑		0.14	0.09			1.00	0.20	0.17	0.13	0.22	2.73	5.14			
	突発性発疹		0.29	0.55	0.67	1.00		0.40	0.40	0.37	0.39	11.97	14.27			
	ヘルパンギーナ		0.86	0.45				0.40	0.43	0.33	2.35	2.83	18.04			
	流行性耳下腺炎			0.09				0.03	0.03	0.10	0.12	1.60	5.09			
	RSウイルス感染症		1.00	0.91				1.00	0.73	0.60	1.37	8.37	15.23			
眼科	急性出血性結膜炎											0.61				
	流行性角結膜炎			14.00				4.67	1.67	0.81	18.33	25.38				
基幹	細菌性髄膜炎									0.02	0.38	0.64				
	無菌性髄膜炎									0.04	0.13	0.92				
	マイコプラズマ肺炎		2.00	0.60				0.63	0.25	0.23	7.25	5.42				
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)										1.50	0.21				
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)										3.63	6.22				
計 (小児科定点当たり人数)	4.50	5.58	9.91	2.34	8.00	5.60	6.93				667.43					
前週 (小児科定点当たり人数)	6.00	4.58	8.09	4.68	3.50	8.20		6.50								

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2018年8月20日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。